

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度 第4回 学校運営協議会及び学校評議員会		
開催日時	令和7年2月 26日(水)		
開催場所	B棟2階 視聴覚室		
出席者	令和6年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 8名(本校校長を含む) 令和6年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員 9名		
次回開催予定日	令和7年6月頃		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 坂梨 尚美 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
1 会長挨拶			
・今年度締めの会議となります。よろしくお願いします。			
2 学校長挨拶			
・体育館は空調工事のおかげで過ごしやすくなった。動きやすい服装で体を動かしている。 ・ほどがやタウンミーティングを12月に開催、大成功を収めた。地域の方にも障害のある方の理解につながった。ご協力いただいた浅野副会長・廣岡委員、ありがとうございます。 ・3月7日、14日に卒業式を迎える。児童・生徒は新たな一步を踏みだす。自分らしく歩んでほしい。 ・4月には全学部あわせて100名程度の新入生を迎える。今年度よりも若干数減るが、新入生は年々増加傾向にあるため、プレハブ校舎を新設することになっている。これに先立ち、新しい通路の工事が行われている。公園の遊歩道のような形になっている。 ・来年度50周年を迎える。準備委員会を設置し、企画を検討している。 ・教員不足は来年度も厳しい状況にある。教員が足りない場合には教員免許を持たない実習助手の任用を考えている。障害のある子どもたちと活動したい人がいれば紹介をしていただけるとありがたい。また、来年度の教員採用試験の特別支援学校枠については、2~3年内に特別支援学校の教員免許を取ることを条件に、受験時に特別支援学校免許がなくても試験を受けられるようになる。 ・本日は学校目標に対する評価をお伝えする。忌憚のないご意見をお願いしたい。			
3 出席者及び会成立の確認（事務局）副校長			
・本日は10名中8名出席、会は成立			
4 資料確認、流れ説明（事務局）副校長			
5 議題「学校目標・年間評価」			
副校長) 資料2のマトリクスで示された取り組みのうち、評価基準以上の成果があったものは◎となっている。◎の内容についてスライド資料を示しながら説明する。			

①学部

●小学部（杉山教頭）

- ・交流前の相手校への事前学習が効果的だった。作品交流も検討していきたい。

●中学部（坂梨副校長）

- ・防災学習・訓練に取り組んだ。引き続き行いたい。地域との交流では、境木中、境木自治会との交流を行った。

●高等部(岩佐 L)

- ・光陵高校との交流に力を入れた。互いの理解をベースにした交流として、理解授業を行った上で実施。36名の参加のうち、90%の生徒から肯定的な意見をもらった。交流の目的を確認しながら、今後も進めたい。

- ・教育環境の改善として朝の登校時の混雑解消のため、昇降口のレイアウト改善を行った。時間外勤務の時間削減にも取り組んだ。

●舞岡分教室(小倉教頭)

- ・進路学習会を教員向けに実施。授業にも直結し、45名在籍のうち8割程度が清掃技能検定に参加した。教員の熱量にもつながっている。

●横浜平沼分教室（坂梨副校長）

- ・防災教育で、傷病者を想定した垂直避難訓練を実施。海が近いため、津波を想定した。
- ・スマホケータイ教室で、安全に使用することについて学んだ。

②グループ

●管理運営G(和田迫G L)

- ・命を守る教育、地域防災訓練を参考に「防災の日」という取り組みを行った。起震車や防災マップなど、学部を越えて体験することができた。84%の教員が肯定的な評価。
- ・水泳指導についてプール再開2年目で、学部間で協力し運営することができた。今後も業務分担等の整理を行う。
- ・会計業務を業務アシスタントが一部担うことになり、100%の教員が業務軽減したと評価。入力支援システムについても、100%の教員から肯定的な意見を得た。

●教育企画G(川口G L)

- ・業務の効率化では、会議時間内での実施、会議スケジュールの見直しを行った。
- ・第1回作品展では、各学部の作品を見られるようにすることで、保護者から子どもたちの成長の様子が感じられたとの好意的な意見が多くかった。
- ・人権研修で、職員の97%から人権意識の向上につながったとの回答が得られた。

●教育支援G(櫻井G L)

- ・命を守る教育、研修を受けてより学びたいという意識が高まった。
- ・AEDや緊急医療体制についての改善、権太坂小の協力により担架の整備を行った。
- ・研究では授業づくりをテーマにポスター発表・実演など相互のやり取りを行った。
- ・チャット機能・議事録の工夫により会議の効率化を進めた。

●連携支援G(辻田G L)

- ・アセスメントの実施は定着してきた。結果の解釈や授業への活かし方について理解を進めていきたい。引継ぎ資料としても有効に活用できるとよい。
- ・情報発信として保護者向けに「てとてだより」を、教員向けに「つながレター」を配付。

③教育活動に関するアンケート（杉山教頭）資料4

- ・保護者アンケートの回収率が50%を下回った。教職員の回答率も例年に比べ低かった。次年度は教職員の回収率100%を目指し、自分たちの学校のことについて主体的に考えられるようしたい。
- ・アンケートは、設問の内容がわかりやすくなるように文言を変更した（網掛け部分）。
- ・保護者アンケートでは、ICT活用・地域資源について実施状況が伝わりづらい様子がある。発信の仕方について工夫が必要。
- ・教員アンケートでは、授業づくりに対する評価が高い。一方、共生社会実現の数値が低い。次年度は共生社会の実現を意識した教育活動に取り組みたい。
- ・生徒アンケートでは、評価が100%の項目もあった。評価が低い項目は質問内容がわかりにくかった可能性もあるが、指導・支援のさらなる工夫を進めたい。
- ・保護者アンケートの回収期間は例年通りで新しくWEB回答も導入したが、例年に比べ回収率が下がった。アンケートの内容や項目、マチコミでの周知なども検討していきたい。

6 協議

浅野氏) 質問に入る前に、アンケート内の『植物の「生長」～』について、文科省の学術用語集だと「成長」となっている。今は「成長」と統一されているので、修正が必要。

渡部氏) 資料1の学校評価報告書の「学校関係者評価」につながる意見をいただきたい。

奥川氏) 学部・GLのテーマに「業務の改善」があった。教員不足もあり効率化は大切なことで無駄の削減につながっていることは評価したい。一方で、削減してはいけないものまで含まれていないかを検証しているのか知りたい。例えば、打合せの目的に情報の共有がある。保護者と教員のやり取りは、連絡帳が主となるが、過去に同じ説明を担任それぞれに3回したことがある。業務削減との関係は分からぬが、なぜ共有できなかつたのか、子どもに係る情報の共有は重要なことだと思う。

奥川氏) 教育活動アンケートの内容は県からのものか？学校独自のものか？

小倉教頭) 県からではなく、学校で考えるもの。

奥川氏) 評価が高い個別教育計画関連項目は、子どもの変化について見やすいもの。結果としてどうなったかがわかりやすい。一方で、評価が低い項目は、子どもをとおして見にくい内容でイメージしにくくて評価しづらい。iPadの使用については面談で聞いているが、それがICT機器活用とどのようにつながっているかがわからない。近隣施設の活動も、プリントで子どもの活動の様子は見られるが、具体的には何をしているのかわからぬ。そこが評価の低さにつながっているのではないか。

PTAでもアンケートをとるが、回収率は7割程度。アンケートの結果を受けて何がどのように変わったのかメリット・デメリットが見えないと「応えても意味がない」と受け取られ回収率アップにつながらないと思う。

品川氏) 奥川様の話は自校にもあてはまる。地区ブロック会議でもアンケートが話題になった。（評価が低い項目の）取り組みが見えないのは同じだった。改善のために権太坂小はアンケートの前に参観日を実施した。

学校間交流は今年とても進んだ。巡回相談も活用できている。これらの取り組みがどうすれば伝わるのか。保護者にとって、交流が子どもにプラスになっているのかわからぬのではないか。権太坂小1年の児童がスクールバスを見学できた。相互理解を進める

ために今後も取り組めるとよい。

小倉教頭、和田迫 GL が地域防災訓練に参加し、「防災の日」の取り組みにつながった。

避難場所になった場合には3校(権太坂小、光陵高校、本校)で協力しできることよい。

業務の平準化については、同じ課題がある。日程の平準化も整理できるとよい。

全般にポイントを絞った発表がよかった。ブロック会議でも参考にしたい。

岸川氏) アンケートのその後については高校でも意識したい。アンケートは経年変化を見たい。

何のためにアンケートを行うのかを考えたい。また、両分教室で△と○の比率が違うのはなぜなのか?実施の仕方が違うのか、生徒が違うからか、環境が違うからか。

職員の働き方改革として、県ではオフィス改革を行っている。ペーパーレス、ネットバンキングの活用など、これまでとは違うことを進めていくことも大切。

交流学習について、1月の全校集会で生徒がプレゼンを行い学びを共有した。交流によって保土ヶ谷・光陵双方の子どもが共に学ぶことが共生社会の第一歩。多くの生徒が交流を体験し触れ合うことが大切だと思う。来年度もよろしくお願いしたい。

廣岡氏) 学校評価の報告では、まとめる力・見せる力のレベルが上がっている。PPも写真や絵を入れて見やすくなっています、先生方の努力が見える。

アンケートについては、メリットがないといけない。事業所でも以前アンケートを取った際に、保護者からいつ改善されるのか?と質問があった。アンケートの結果は総合的に検討し、順次取り組んでいくものだが、保護者にとっては自分の意見が反映されることに関心が高い。

業務削減・共有不足などは事業所でも課題になっている。利用者・家族にとってメリットかデメリットかが大切。教員不足で免許がなくても任用されることや業務削減・定時退勤も管理者としては大切な視点だが、利用者・家族・生徒にとってマイナスイメージになることもある。生徒・保護者に対してメリットを確実に保障することが大切。教員免許なしの採用は、人手不足解消にはなると思うが、その方の教育が課題になるのではないか。業務改善・削減により、自分の仕事だけ済ませて帰るような人が出てくるとメリット・デメリットがある。職員の教育についても考えていきたい。

栗原氏) コロナが終わって、交流が進んできた。本来の姿に戻ってきたと感じる。このまま進めてほしい。我が職場でも多くのアンケートが届くが、質問項目が多いと後回しにしてしまうことがある。簡単に回答できる内容だと回収率が上がるのではないか。

教員の採用について免許がなくても可能という話だが、3年で免許が取れなかつたらどうなるのか?学校で過ごす中で、免許取得のための勉強の時間は取れるのか?難しさがあるのではないか。

業務の改善は、学校だけでなく会社も同じ。

校長) 教員採用については、実習助手・教育アシスタントは時限的な採用となっている。特別支援学校の採用については、基礎免許があれば特別支援学校の免許がなくても実務経験があれば3年間程度で取得できる。

栗原氏) 障害のある人が様々な資格を取っている。10年経つたら取れる資格もある。在学中に経験を重ね何か資格が取れるとよいのでは。

浅野氏) 学校評価については、報告レベルの向上が見られる。年間評価について学部 L・GL から説明してもらい、感慨深く聞いていた。各担当者の苦労の賜物。学校評価について言うことはない。今後も続けてほしい。

アンケートについては、奥川様の意見に大賛成。岸川様からあった経年変化についても大賛成。そのように次年度以降は取り組んでほしい。

県では今年度からＩＣＴ機器（1人1台端末）を導入しているが、この件に関して他校ではアンケートの数値が15%上がった。担当者だけの問題にせず評価の仕方について検討してほしい。評価の指摘事項については、今後も改善を進めてほしい。

7 議題「部会報告」

○切れ目ない支援部会・ほどがやタウンミーティング

1、2回目の部会で、ほどがやタウンミーティングに向けて準備を進めた。権太坂境木地区・連合町会に案内を配付した。3回目に31名が参加しミーティングを実施した。参加した方からは「在宅避難」の言葉が印象的だったとの意見が寄せられた。有事だけでなく普段からの関係性が大切であることも確認できた。4回目は日程がつかず書面開催となった。

○今年度休会していた農園活用部会については、次年度プレハブ校舎の建築に伴い制限があるので引き続き休会とする。農園での生徒の活動は継続する。

8 協議

○重点課題「進路支援について」

昨年度はブロック別懇談会と、進路担当者と雇用部会との懇談会を行った。今年度はほどがやタウンミーティングで地域への情報発信を行った。地域で暮らすことを地域・保護者・教員間でとらえること、情報交換・発信を行うことをタウンミーティングに集約していきたい。

○質疑応答

浅野氏) この試みを今後も続けていきたい。地域の支援級の保護者にも参加していただきたいと思った。支援級の保護者に参加してもらうことが、センター的機能の強化につながる。実施に向けた取り組みへのご尽力に感謝したい。

廣岡氏) 貴重な機会となった。和やかな雰囲気の会となってよかったです。地域とのつながり、事業所としても地域の方を呼んで事業展開をしたいと思っていたので、よい機会だった。一方で地域の方、ケアプラの方々がほとんどで身内感が強かった。今後は全く関係のない方も参加したいと思うような内容にできるとよい。地域共生化にもつながると思う。

栗原氏) ミーティングには参加できなかったが、障害のある方が、地域の中で過ごすことの取り組みは今後も進めていく必要がある。みんなが入りやすい参加しやすい場を作っていくことが大切。大変だと思うが取り組みを進めてほしい。

岸川氏) 興味がある人だけでなく、広く来てもらうことが理想。それが共生社会や多様性を認めることにつながる。必要がなければその場にはいかないので、どのように伝えていくかが大切。

品川氏) 12月25日まで学校があったので参加できなかった。横浜市立小中学校との日程調整は難しいと思うが、広報と日程については相談したい。

防災については、住んでいる地域での取り組みも大切。防災訓練については地域とのつながりが大切だと思う方もいる一方で、PTAや自治会など任意の団体から抜ける流れが加速している。大切だと思う方を増やすためには、必要なことだと思う。

奥川氏) ミーティングには参加ができなかった。30名の参加者の中で、小グループで双方向のやり取りをし、一人ひとりと話す機会があることはよかったです。アンケートを見ると、参加

者が様々な気づきを得られたことがわかる。防災以外にも、広範囲なテーマを挙げられている。センター的機能にあたって、大きな意味を持っている。

小倉教頭) 少人数で双方向のやり取りができた。今後は大人数でとも思っているが、双方向のことを思うと人数の都合もある。レコーディングした内容をHPで紹介することや、Zoomのビジネス契約をしているのでZoomを活用した取り組みも考えられる。

浅野氏) 瀬谷支援と三ツ境支援は今年度、合同で「せやみつタウンミーティング」を行った。企業3人、福祉3人でグループを分けて行っている。

9 事務連絡

今年度の学校運営協議会は終了となる。次年度はメンバーが変わることも考えられるため、メンバーに確認したうえで次年度の予定を組んでいきたい。

10 副会長挨拶

とてもよい議論ができた。先生方は大変だと思うが、よい協議会になっている。
4回の協議会に予算と決算について入れてほしい。(第1回で昨年度の決算と今年度の予算を報告している) 予算を見ることで力を入れるところがよくわかる。

11 会長挨拶

異動の時期である。平成28年にコミスクのモデル校3校が指定され、そのうちの1校が保土ヶ谷だった。その時からご尽力いただいた浅野副会長が今回で退任されると伺った。非常に残念。ぜひ副会長からご挨拶をいただきたい。

浅野副会長) 今年度で学校運営協議会委員が最後となる。7月末で日立グループを退任する。本日が協議会の最終日となる。2018年が最初で、7年間担当をした。
自身の発言で学校が少しでも良い方向に進んでくれればと思う。校長はじめ先生方、ありがとうございました。心よりお礼を申し上げる。次年度からは社長の大岩が参加します。

校長) 長年にわたり、大変お世話になりました。タウンミーティングなど、副会長がおられたから形になったものが多くある。今後も継続し発展させていきたい。

～本会において、各内容が全て承認された～

会議資料

※添付なし